

護衛艦「たかなみ」が5年ぶりに清水港に入港 特別公開に250人

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・杉谷康征一等空佐）は9月19日（土）と20日（日）、清水港日の出埠頭（静岡市）に入港した海上自衛隊の護衛艦「たかなみ」の特別公開を実施した。

同艦が県内に入港するのは5年ぶり。今回は新型コロナウイルス感染拡大防止に留意し、自衛隊に興味のある学生等を対象とした特別公開を行い、2日間で257人が訪れた。

検温とアルコール消毒を入念に行った参加者は、乗員の案内のもと、艦橋横の見張り台やヘリコプターが離発着できる甲板、魚雷発射管や速射砲といった装備を見学。艦前部にある20ミリ機関砲の作動展示も行われ、轟音とともに高速で動く様子に驚きの声を上げていた。

また、岸壁では消火用の万能ノズルを使った散水体験を実施。勢いよく噴き出す水に圧倒されながらも、艦艇での仕事を体験できた参加者は満足げな表情を浮かべていた。

普段船で実習を行っている大学生の参加者は「自衛隊の船を見るのは初めて。普段乗っている木造船と比べると、大きくて頑丈で安心感がある。航海士を目指しているので、航海科の話を聞くことができてよかった」と話していた。

静岡地本は、今後も各部隊と協力し、自衛隊を志す若者に理解を深めてもらえるよう広報活動を実施していく。



清水に寄港した静岡県出身海上自衛官がラジオ出演

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・杉谷康征一等空佐）は9月19日（土）、清水港日の出埠頭（静岡市）において、海上自衛隊第6護衛隊司令の稲葉洋介一等海佐と、護衛艦「たかなみ」乗員の山本真矢海士長のラジオ収録を支援した。

2人が出演したのは、エフエムしみずのラジオ番組「自衛TIMES★静岡」。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、護衛艦「たかなみ」が接岸した岸壁に収録スペースを設け、透明なパーティションで距離を保って収録に臨んだ。

熱海市出身の稲葉1佐は「平成24年に『やまゆき』艦長として寄港して以来、護衛艦での寄港は2回目です。母が清水出身で、小さい頃からよく遊びに来ていました。とても懐かしいところです」と目を細めた。

また、護衛艦「たかなみ」を擁する第6護衛隊の司令として、2月から6月にかけて中東地域へ派遣されていたことに触れ、「派遣中は家族や国民の皆様からいただいた声援が何よりの励みでした。これまでアメリカやサウジアラビアで勤務したこともあり、日本を海外から見ることができたことは勤務の大きな糧となっています」と、広い世界で活躍する海上自衛官の魅力を語った。

一方、昨年入隊した山本士長は清水区出身。「寄港は初めてで、地元の港に入るのは新鮮です」と笑顔を見せた。

勤務について聞かれると、「給養員として、乗員においしい食事を提供しています」と、毎日200人近い乗員の食事を調理している様子を伝え、「入隊して1年ですが、中東地域での任務に貢献できたことを誇りに思います」と胸を張った。

静岡地本は、今後もさまざまなメディアを通じて自衛隊の魅力を発信し、県民に理解を深めてもらえるよう広報活動に努めていく。

